

事業完了報告書

調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ～ 平成31年3月15日
調査研究事項	<p>《委託研究Ⅲ》</p> <p>【八尾市立八尾中学校】</p> <p>イ. 入学要件・時期に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な入学希望者への就学機会の提供のあり方について <p>ウ. 教育課程・指導上の工夫に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実情に応じた教育課程の編成について <p>オ. 教職員の配置・研修に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間中学校専任スタッフ(通訳等)の配置や日本語指導等における教職員研修や教材作成について <p>カ. その他既存の夜間中学における教育機会の提供拡充に関すること</p>
調査研究のねらい	<p>【八尾市立八尾中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 現在、春と秋に入学を受け付けているが、積極的にニーズをつかみ、生徒を受け入れていくにはどのように体制づくりをしていけばよいのか研究していきたい。 ○ 現在、入学時点では殆ど日本語を話すことのできない外国籍の生徒が大半を占め、母語での読み書きができない生徒もいる。日本国籍の者も帰化・引揚げ帰国が多くを占めている。そのため、中学校の教育課程の学習以前に日本語習得が必要である。小学校の教育課程も含めより効果的な日本語指導とそれに続く中学校教育課程の指導方法を研究し体系化していきたい。 ○ 中学校の教育課程の学習以前に日本語習得が必要である生徒も多く、日本語指導について教職員研修を重ねることで、より効果的な日本語指導に必要な教材の開発を進めていきたい。 ○ 生徒の実態に合わせた指導をサポートするため、面談や諸手続き上の説明等における通訳のスタッフを配置することで、学習指導・生活指導・進路指導等を効率よく進めていきたい。また、未成年者においては、保護者への説明も含む。 ○ 夜間中学に入学しなければならない生徒たちの多くは、国籍にかかわらず、様々な生活上の困難を抱えている。生徒達が日本の社会で安全、安心な生活を営むための「生きる力」を習得できるよう学習指導も含め生活指導にも力を入れ、その指導方法

	を記録、工夫していきたい。
調査研究の成果	<p>【八尾市立八尾中学校】</p> <p>◎本年度の取り組みについて</p> <p>イ. 入学要件・時期に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒募集のビラ配りや各市の広報誌への生徒募集や連合作品展の案内を掲載してもらったり、地元FM局から紹介してもらい、夜間学級のことを知ってもらうように取り組んだ。 ・春と秋の入学受付期間以外に連絡してきたものについては、面談後に授業見学や聴講生として授業を体験できるようにしている。 <p>ウ. 教育課程・指導上の工夫に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7組～4組までの日本語を主体とした課程のクラスでは、例年と同じように日本語の習得状況に応じて7組→6組→5組→4組と半期ごとに学級編成を行い進級させた。また特に習得の速い生徒は半期途中でも進級させた。また、進級はしたが家庭状況などの理由により出席が難しい時期があり、高齢などのため学習成果が定着せず、ついていけなくなった生徒は本人と相談のうえ元のクラスに戻した。 ・3組～1組は本来の中学校教育課程での編成である。個々の状況により個別の指導を行っているが、高齢のため学校で長い時間過ごせない者・働き盛りのため思うように登校できない者が多い等の理由により学習進度に差ができた。また、既卒者の問い合わせも数件あり、そのため、例年以上に個別の対応が必要となり教材等の工夫をした。 ・進学予定の生徒には、専任スタッフの通訳のもと保護者、本人と進路懇談し、多言語進路ガイダンスにも参加した。また、日々の授業前と長期休業中に補習等の学習体制を検討し、高校進学に取り組んだ。 ・本校で学習してきたことをもとに、自分の思いを作文にして披露する作文発表会を年2回実施し、年度末には文集にして校外にも配付している。 <p>オ. 教職員の配置・研修に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導力の向上のため研修を行い、本年度も大阪YWCAを訪ね、日本語指導の模擬授業を参観し、後に教授方法などの研修を受けた。また、その席で大阪YWCAと本学級で連携でき

ることではないか論議した。

- ・研究授業での指導方法の改善はもちろん、自主教材の作成に力を入れた。
- ・外国籍生徒が増えてきたこともあり、在留資格等についても研修をしていかなければならないと考える。

カ. その他既存の夜間中学における教育機会の提供拡充に関すること

- ・生徒の生活相談に応じ弁護士等への相談のアドバイス等を行った。
- ・結核検診における精密検査等の指導。学校検診における精密検査・特定検診等の付き添いや国民健康保険の請求や滞納の対応等について市役所・保健所等への相談援助を行った。
- ・市営住宅申し込みの書類の書き方等の援助。
- ・生活保護関連の手続き援助
- ・就学援助関連の手続き援助
- ・健康について相談対応
- ・生徒の新たに渡日した学齢期の子弟の教育相談等の対応
- ・通学定期関連の手続き援助
- ・生活習慣病を意識した料理、子どもや孫の弁当を目的とした日本料理の調理実習

◎成果について

夜間学級のことを知ってもらい取組みを進めてきたからか、義務教育既卒者の学びなおしの問い合わせがあり、来年度から入学をすることになっている。

本学級には外国籍生徒が多数在籍しており、日本語指導力の向上は、本学級の最優先課題の一つであるが、毎年研修を重ね、それぞれの教師の方向性の確認や、修正すべきところを少し見いだすことができた。しかし、それぞれの学習理解度や学習進度には個人差があり、課題は尽きない。

生徒指導、生活指導の相談の中で外国籍生徒の課題を捉え、教科指導、教材作成等に活かしている。また、通学を交えた進路相談を行い、進学希望者への補習を日々の課業前や長期休業中に行うことにより、生徒の不安や心配事を取り除き、出席を

助けることにもなっている。しかし、どうしても生活が優先となり、出席したくてもできない生徒は多い。

生徒たちにとって、夜間学級は学習できる場所である以上に安心できる居場所であり、なんでも相談に応じてくれる(実際には対応できない事案の方が多いのであるが)信頼する教師のいるところであり、特に高齢の生徒たちにとっては重要なセーフティーネットとなっている。高校進学を考えているものもいるが、卒業生のほとんどが、夜間学級での継続した学習を望んでいる。